



JASDAQ

平成 21 年 7 月 9 日

各 位

会社名 株式会社 S B R
代表者名 代表取締役社長 高梨宏史
(JASDAQ・コード2759)
問合せ先 総合企画室次長 佐野友義
電 話 03-5733-4492

不正行為及び不適切な会計処理による連結業績への影響額、
及び平成21年3月期連結業績予想との差異、特別損失の計上、
並びに過年度（平成20年3月期）連結業績の訂正に関するお知らせ

平成 21 年 7 月 8 日付「外部調査委員会による調査報告について」においてご報告いたしました、当社金融サービス事業における不正行為等による業績への影響額を踏まえ、平成 21 年 5 月 11 日に公表した平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の連結業績予想について、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。特別損失の計上についても併せてお知らせいたします。

また、平成 20 年 3 月期の決算短信の主要経営指標に与える影響が判明しましたのでお知らせをいたします。

なお、平成 20 年 3 月期中間決算短信、平成 20 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況、平成 20 年 3 月期決算短信、平成 21 年 3 月期第 1 四半期決算短信、平成 21 年 3 月期第 2 四半期決算短信、及び平成 21 年 3 月期第 3 四半期決算短信の訂正、並びに平成 21 年 3 月期決算短信の確定につきましては、現在確定及び訂正作業を鋭意進めており、決算短信の発表及び訂正につきましては 7 月下旬を目処に行う予定であります。

また、平成 20 年 3 月期半期報告書、平成 20 年 3 月期有価証券報告書、平成 21 年 3 月期第 1 四半期報告書、平成 21 年 3 月期第 2 四半期報告書、及び平成 21 年 3 月期第 3 四半期報告書の訂正、並びに平成 21 年 3 月期有価証券報告書の提出につきましては、現在作業を鋭意進めており、平成 21 年 7 月 31 日の提出予定であります。

記

1. 金融サービス事業における不正行為及び不適切な会計処理による連結業績への影響額

平成 21 年 5 月 11 日付「業績に影響を与える事象の発生と社内調査報告及び外部調査委員会の設置について」及び平成 21 年 6 月 19 日付「不正行為及び不適切な会計処理に関する外部調査委員会の中間報告について」において、当社金融サービス事業における不正行為等による平成 21 年 3 月期の連結業績に与える影響額について、以下の金額を見込んでおりました。

- | | |
|----------------------|-----------|
| ・手数料売上高の取消 | 約 3.5 億円 |
| ・営業立替金全額に関する貸倒引当金の計上 | 約 36.3 億円 |

平成 21 年 7 月 8 日付「外部調査委員会による調査報告について」においてご報告しました通り、社内調査チーム及び外部調査委員会による調査の結果、不正行為等による業績への影響額は最終的に以下のとおり、平成 20 年 3 月期で約 21.5 億円、平成 21 年 3 月期で約 23.5 億円、2 期分を合計しますと約 45.1 億円と、これまで公表しておりました見込に比して増加することとなりました。

(単位：百万円)

	平成 20 年 3 月期	平成 21 年 3 月期	合計
売上（金融収入）	△171	△388	△559
貸倒引当金繰入（特別損失）	1,848	1,784	3,632
金融取引損失引当金繰入	0	157	157
その他関連損失	136	27	164
合計	△2,156	△2,358	△4,513

上記の金額は、金融サービス事業における不正行為等により、直接的に発生した修正金額となります。これに加えて、業績修正に伴う繰延税金資産の取崩等の間接的に発生した修正額があり、「2. 業績予想の修正」に記載しておりますのは、これら直接影響額と間接影響額の双方の金額の合計であります。また、金融取引損失引当金は、金融支援サービス事業における不適切な会計を起因とした将来発生可能性のある債権の回収不能見込み額を見積り計上したものであります。

2. 業績予想の修正

(1) 平成 21 年 3 月期 連結業績予想の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）

	売上高	営業損失	経常損失	当期純損失	1 株当たり 当期純損失
前回発表予想（A） （平成 21 年 5 月 11 日発表）	百万円 18,410	百万円 △4,545	百万円 △4,349	百万円 △11,874	円 銭 △23,039.50
今回修正予想（B）	18,420	△897	△741	△9,547	△18,524.90
増減額（B－A）	9	3,648	3,607	2,327	4,514.60
増減率（%）	0.1	—	—	—	—

(2) 修正の理由

金融サービス事業における不正行為等による影響額の確定に伴い、前回発表予想から連結業績予想を修正しております。

前回（平成 21 年 5 月 11 日付）発表した業績予想は、金融支援サービス事業に係る修正必要額を、その全額（約 36.3 億円）について平成 21 年 3 月期に反映させた形となっております。しかしながら、調査の結果、修正必要額の少なからぬ部分について、平成 20 年 3 月期の業績に反映させるべき事実が判明いたしました。その結果として、当該修正必要額が、平成 21 年 3 月期（約 17.8 億円）と平成 20 年 3 月期（約 18.4 億円）に分散されることとなり、平成 21 年 3 月期のみを与える影響額は、当初見込みよりも小さくなっております。

加えて、営業立替金に対する貸倒引当金繰入額に関しまして、当初は販売管理費としての計上を見込んでおりましたが、正常な商取引による損失ではない事実を考慮し、特別損失として計上することにいたしました。その結果として、営業損失および経常損失に関しましては、前回発表した予想値よりも損失額が圧縮されております。

これらの要因により、売上高 18,420 百万円、営業損失 897 百万円、経常損失 741 百万円、当期純損失 9,547 百万円に連結業績予想を修正致します。

なお、繰り返しになりますが、平成 21 年 3 月期の連結業績予想は前回発表予想と比して改善しておりますが、当該不正行為等による影響額が減少したのではございません。平成 21 年 3 月期にその影響額を一括計上していたものを、当該不正行為等が過年度に及んでいたことが調査の結果判明しましたので、平成 20 年 3 月期及び平成 21 年 3 月期にそれぞれ影響額を計上しており、2 期分の累計額としましては当初見込額と比して増加しましたことを誤認のないよう補足いたします。

3. 特別損失の計上

上記（2）修正の理由にも記載のとおり、金融支援サービス事業に係る営業立替金に対する引当金の

繰入を前回発表時点では販売管理費として計上しておりましたが、正常な商取引による損失ではないという事実を考慮し販売管理費から特別損失へ振替を行うこととしたことにより、前回（平成21年5月11日付）発表より増加し、特別損失は8,909百万円を計上する見通しとなりました。

なお、特別損失が増加した項目は下記のとおりであります。

①貸倒引当金繰入：4,653百万円

合同会社 Expanding Investment Co. への貸付金に対する引当金の繰入及び金融支援サービス事業に係る営業立替金に対する引当金の繰入

②固定資産減損損失：1,636百万円

グループ子会社ののれん代の減損

4. 過年度（平成20年3月期）の連結業績の訂正

(1) 平成20年3月期 連結業績の訂正（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

	売上高	営業損失	経常損失	当期純損失	1株当たり 当期純利益
訂正前 (A)	百万円 18,373	百万円 △395	百万円 △486	百万円 △3,533	円 銭 △6,858.97
訂正後 (B)	17,957	△740	△778	△6,437	△12,495.88
増減額 (B-A)	△415	△344	△291	△2,903	△5,636.91
増減率 (%)	△2.3	—	—	—	—

(2) 訂正の理由

金融サービス事業における不正行為等による影響額が過年度に及んだことにより、売上高及び特別損失の訂正を行う見込みです。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算出したものであり、今後様々な要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

以 上